

<三重県> (種別：学校) 三重県立四日市農芸高等学校**取組概要**

当該校は、4科（農業科学科、食品科学科、環境造園科、生活文化科）からなる全日制の学校で、1学年約200人の中規模校。共通教科並びに専門教科の学習を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成することを学校像としている。

1. SDGsの視点を踏まえた地域の活性化

地元企業と連携し、SDGsの視点を踏まえたスマート農業や廃棄物の利活用、環境保全等をテーマとした様々な実習を通じて、地域の活性化に取り組んでいる。令和5年度には、地元産業である紡績業の企業から相談を受け、製造過程で生まれるウール廃材について、同じく地元産業である茶栽培や酒米の栽培で肥料として活用するなど、持続可能な農業や環境に優しい農業のあり方について研究した。

2. 各学科の取組

農業科学科では、地元企業と連携して、酒米の栽培から収穫、仕込みを行い、独自ブランドの日本酒として生産するとともに、生産実習ではJGAP（米）認証を取得している。

食品科学科では、ジャムや味噌等を製造し、校内の販売所で地域住民に対して販売したり、商店街のイベントや地域の祭等にも出店したりしている。また、地元四日市の産業である「かぶせ茶」を活用したパンやサブレ等の商品開発にも注力している。

環境造園科では、技能五輪全国大会で活躍するなど、「厚生労働省 ものづくりマイスター」を活用した若手技術者の育成に取り組むとともに、令和6年度から、高校DX加速化推進事業の指定を受け、AIを活用した水田管理など、データサイエンスやAIを活用した学習の充実に努めている。

生活文化科では、地元の大学や専門学校と連携協定を締結し、地域で活躍する専門家を招聘した、食品調理技能の習得や製菓衛生師の国家資格の取得をめざした授業を実施し、高い専門能力を育成している。

3. インターンシップにおける地元企業との連携

当該校では、10年以上の長きにわたり、過去の卒業生が就職した多数の地元企業を中心に、2年生の全生徒（令和6年度在籍生徒数：農業科学科39人、食品科学科40人、環境造園科40人、生活文化科78人）が、4日間程度のインターンシップを行っている。また、地域の職業人を講師として招いた職業講話等、早期から、生徒が自己の将来について考えるキャリア教育の充実に取り組んでいる。

【ホームページ】 <https://www.mie-c.ed.jp/ayokka/wp/>